

未知への挑戦が、 未来への架け橋

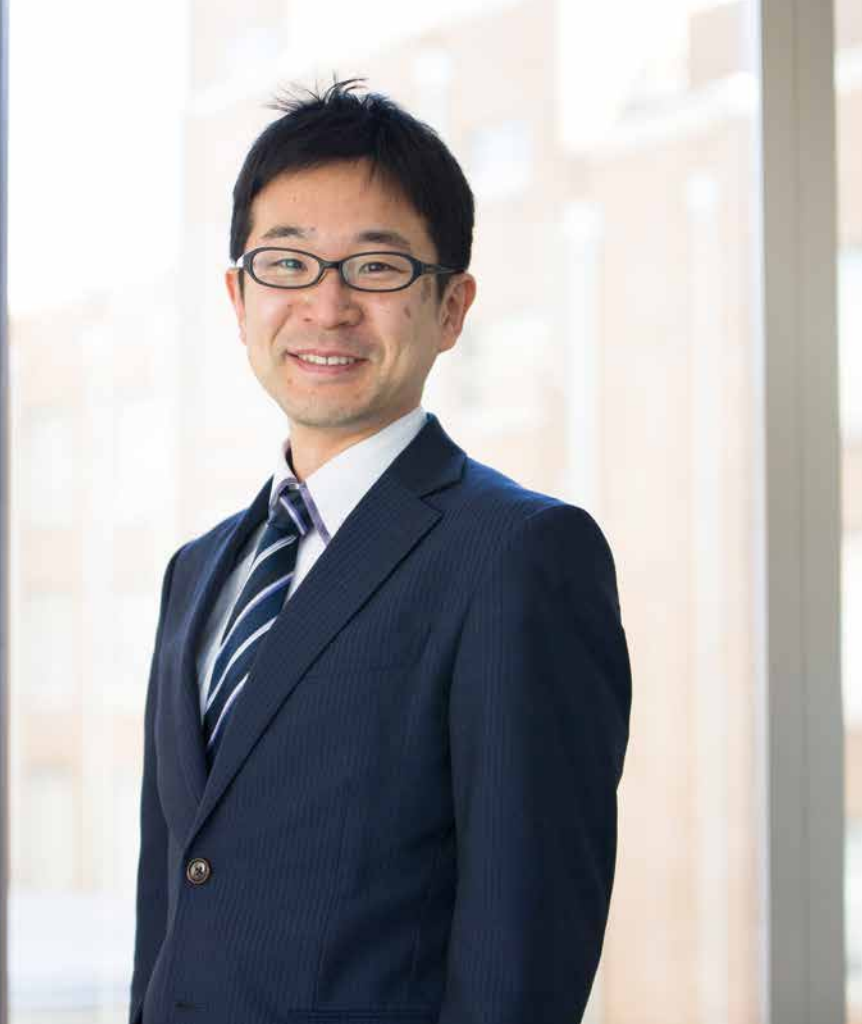
研究振興局ライフサイエンス課
感染症研究推進係長

玉井 利明 Tamai Toshiaki

profile

平成 18 年入省（電気・電子）

- 平成 18 年 4 月 文部科学省大臣官房政策情報推進室
- 平成 19 年 3 月 同 研究開発局開発企画課
- 平成 20 年 4 月 同 研究振興局研究環境・産業連携課新技術革新室
- 平成 22 年 4 月 同 科学技術・学術政策局基盤政策課
地域科学技術振興室
- 平成 22 年 7 月 同 科学技術・学術政策局基盤政策課
地域科学技術振興室地域係長
- 平成 23 年 1 月 同 科学技術・学術政策局政策課専門職
- 平成 24 年 1 月 内閣府原子力安全委員会事務局総務課総括係長
- 平成 24 年 9 月 原子力規制委員会原子力規制庁総務課企画係長
- 平成 26 年 3 月 同 原子力規制庁長官官房総務課政策企画係長
- 平成 26 年 4 月 文部科学省研究開発局環境エネルギー課
核融合開発室専門職
- 平成 28 年 1 月 現職



よりよい医療を一日も早く提供するために

私はがん、感染症、ゲノム医療に関する大学等の優れた研究を国として推進していくために、3つの研究プロジェクトを担当しています。それぞれ数十億円規模の予算額があり、その中でよりよい成果を創出するために、わが国の医療分野の研究開発を総合的かつ効率的に担う研究資金配分機関の日本医療研究開発機構と連絡を密に取り、事業を進めています。これに加え、新たな感染症研究プロジェクトの検討も開始しています。

様々な業務を通じた自己成長ができる場所

私はこれまで異動が多く、異動しては勉強の繰り返しで、特に全く未知の分野の部署に異動したときは、最初数カ月には相当苦しんだ記憶があります。しかし、周囲に色々と聞き勉強を進めていく中で、徐々に自分の考えがとおり、結果的にそれが国の方針になっていくというのは非常に楽しく、やりがいがあります。文部科学省は所掌範囲がとても広く、様々な業務に携わることで、自己成長のチャンスが多いというのは、文部科学省の大きな魅力だと思います。

新規感染症研究プロジェクトの立ち上げに向けて

2016年
2月

国際的に脅威となる感染症対策の強化に関する基本計画策定

「国際的に脅威となる感染症対策関係閣僚会議」において、国の基本計画が策定され、感染症に対する社会的な期待が大いに高まる中で、今後の感染症研究の強化策の検討を始める。



2016年
8月～12月

新規プロジェクトの概算要求、財務省折衝

検討会の報告書などを踏まえて、新規感染症研究プロジェクトの概算要求を実施。財務省にその重要性、緊急性を理解していただくために、分かりやすい資料を作り、説明のため足を運ぶ。

2016年
6月～7月

感染症研究の今後の在り方に関する検討会の開催

感染症研究で著名な産学の有識者の先生方を10名程度集めて、現在の感染症研究の課題、今後の在り方などについて会議を4回開催、議論した上で、最終的に報告書を取りまとめる。

2017年
1月

具体的な制度スキームの検討開始

2016年12月22日に予算案が成立し、新規感染症研究プロジェクトにも一定予算が措置されたことを受けて、省内外の関係者間で具体的な制度スキームの検討を本格的に開始。

